

1 月 12 日（木）に平成 28 年度南丹地区学校安全研究協議会を開催し、管内の幼稚園、小・中・府立学校の教職員など合わせておよそ 70 名の参加がありました。

当日は、当教育局指導主事から管内の学校安全に関する課題提起を行い、児童主体の安全活動に取り組んでいる小学校からの実践発表や安全教育に関する講演をしていただきました。

■ ■ ■ 実践発表 「児童の安心・安全な環境づくり」

亀岡市立大井小学校 久保 日出樹 教諭



児童の主体性を大切にした「心も はきものも そろえよう！」などの取組や、登下校時の見守りや声掛け（挨拶）などの地域・家庭との“つながり”を大切にした取組など、たくさんの事例を紹介していただきました。

また、「法やルールに関する教育」とも絡めた指導も行われており、「児童一人一人の意識を高め、みんなが安心・安全な学校をつくるためにはどうすればよいかを考えさせることが大切である」と報告いただきました。

参加者の感想	<ul style="list-style-type: none">○子どもたちが自ら考えて行動に移せるような取組が多く、園にも持ち帰り広めたいと感じました。また、地域とのつながりを大切にしておられ、大変参考になりました。（幼稚園）○全職員が学校の課題について共通認識し、一致団結して同じ方向に向かって取組を進められていることがよく分かりました。安全への意識を高めたり、法や決まりを重んじる心を育てたりするには児童自らがどれだけ関わられるか、主体性を持たせるかが重要ですが、子どもたちの興味関心をうまく引き出した素晴らしい実践をされており、大変参考になりました。（小学校）
--------	---

■ ■ ■ 講演 「危機管理について」

大阪教育大学 教授、学校危機メンタルサポートセンター長 藤田 大輔 氏



学校保健安全法の解説や様々な事故や事件の事例、大阪教育大学附属池田小学校で行われている訓練の様子などを交えて、（学校等に作成が義務付けられている）「学校危機管理マニュアル」の見直しのポイントを教えてくださいました。遊具は教員自らがあえて悪条件で使用して安全性を確かめること、他人事ではなく「自分だったら」「親だったら」と立場を変えて考えて行動することなど、子どもたちの大切な命を預かる者としてその命を守るための準備をしっかりとしておく必要があると語られました。

また、「協働」というキーワードを用いて、地域や家庭などと連携してみんなで子どもたちを守り育てていくことの大切さを教えていただきました。

参加者の感想	<ul style="list-style-type: none">○私たちの責任として「子どもの生命」を守ることの重さが、ずっしり胸に響いた。重大事故と直接かかわってこられた先生だからこそ、小さなことにも目を向けておられることが印象的で、高いアンテナで学校を見てしっかり学校運営に活かしていきたいと感じた。大変勉強になったので、3 学期の訓練を前に本校でも見直しを図りたい。（小学校）○様々な事件、事故の事例を聞かせていただき、形だけの危機管理では対応しきれないということを痛感いたしました。教員の足元ひとつにその真剣さが出ることを職員にも伝えていきたいと思いました。（中学校）○保護者目線で考えると、教員としてどのように行動しなければならないかについてもよく理解できた。教員が安全教育に関してさらに研修し、実践に活かせるように準備するとともに、子どもにも主体的に安全に生活できるよう、態度の育成を図っていくことも重要と考えた。（府立学校）
--------	---